

第3B (小) 分科会 —教育環境整備に関する課題—

提案主題 子どもと職員が生き生きと活動できる学校環境の整備
～人・もの・施設を整えるための教頭の役割～

司会者	大分市立野津原東部小学校	阿部哲哉
提言者	大分市立荏隈小学校	重石義之
助言者	大分市立植田西中学校校長	大賀弘史
記録者	大分市立豊府小学校	高橋謙造

1 協議の柱

- ・教育環境整備を組織的に進めるために、教頭としてどのように関わっていけばよいか。

2 協議の実際 (内容)

(1) 全体質疑・応答

【質】給食室との連携のところで「献立委員会」の内容はどのようなものか？

【応】アレルギー対応についてや給食指導における困りや願いの出し合いを行っている。

(2) グループ発表

- ・コミュニケーションの大切さや環境の整え方など参考になった。物品購入の際には、情報開示をしていった。
- ・物的環境を整えるところで「何が、どれだけ、どこに、どれくらい、適切に」ということを大切にして教職員と共通理解のもとに交通整理をすることが教頭として大切。
- ・物的環境を整えるうえで事務職員・支援センターと連携を強化する、環境整備については地域の力やPTAの協力を得ながら進める、ICTの利用促進も有効なのではないか。
- ・組織的に進めるには、教頭はみかじめを行う。仕事分担をし、各仕事を分掌主任に任せ、教頭はコーディネイトしていくことも大切なのではないか。

3 指導助言

- ・私自身も教頭と教諭の仕事が全く違うということを思い知らされたことがある。学校は、生徒と授業や部活をしたりしている以外にも、ものすごい仕事の量があり、たくさんの人たちに支えられて学校が成り立っている。
- ・外部や地域から見て、施設の面においてさえも倉庫やストックヤードなど未整理の状態が一つでもあるという指摘を受ければ、いくら他の教育活動を一生懸命行っていたとしても学校の信頼が薄れてしまいかねない、そういうことを教頭はしっかりと念頭に置いておかなければならない。
- ・学習の進まない子どもがカバンの中や机、ロッカーの整理ができないことがあるのと同じで、教育環境が整っていない状態の学校では、教育活動も効率的でない、たかが知れていることになるし、地域の方からみると学校の評価は低いものになる。まず、教頭が率先して動き、組織的に学校が動けるようにしなければならない。
- ・教頭の仕事の守備範囲はわかりづらいが、対外的にも、教育活動を円滑に進めるためにも、校務を整理し、管理職として教育活動が効率よく回るようコミュニケーション能力を発揮して教職員の要となることが仕事であり、やりがいである。